

問 2017年に衆議院の選挙があり、消費税について話題になった。2019年には、消費税が10%になり、その中の地方消費税は子育て支援や教育にも使えるようになってきている。ここで、気になったのが、消費税は何に使われているかということ。自分たちが物を買って納めた消費税の使い道がわかると、消費税を払うことに意義を持てるようになると思う。また、ほかの税や国のあり方にも関心が高まると思う。以上のことから、愛荘町での消費税の使い道を問う。

消費税の使い道について



あのみわ まなか 議員
青峰 愛華 (秦荘中学校)

緊張しましたが、堂々と話すことができよかったです。小学校のときより発言に重みがかかり、真剣な雰囲気でした。とても貴重な体験ができ、良い経験になりました。

答 (総務課長)

一般的に消費税とは、国税部分(63%)と、地方消費税(17%)を合わせたものを言っている。

国税である消費税は、すべて子ども・子育て支援、医療・介護、年金等の社会保障に使われている。

地方消費税は、国から交付金(愛荘町では約3億円以上)として交付され、子育て支援福祉医療やごみ処理等さまざまな事業に使っている。

今後、消費税の引き上げに伴い地方消費税も引き上げられるので、住民の更なる福祉向上のため、これらの財源を有効に活用し、効果的な事業実施に向け取り組んでいきたい。

スポーツをする機会の提供について



なかじま たける 議員
中島 健 (愛知中学校)

少し緊張しましたが、しっかりと意見を言うことができよかったです。また、普段できない体験ができ、とても勉強になりました。この体験を人生に生かして生きたいと思います。

答 (生涯学習課長)

町では、町スポーツセンターをはじめ、体育館、武道館、野球場など利用目的によって選択できる施設空間を用意している。

また、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団、体育協会などが主催する各種大会・教室を提供しており、幅広い年齢層が日常的に多様なスポーツ活動に親しむことができるように、時間・施設空間・活動仲間および活動を提供している。

町では、「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」スポーツに親しめるよう、さまざまな環境を整えているので、自分にあったスポーツを見つけ、多くの「仲間」と心身ともに健康な日々を過ごしていただきたいと願っている。

最近、スポーツ離れが問題視され、小・中学生の体力も低下傾向とされている。その原因として「時間・空間・仲間」の減少が考えられる。「空間」は、身近に行ける公園、ボールを使って遊べる場所が少ないこと。「時間」は、中学校の運動部以外の人の運動時間が少ないこと。「仲間」については、僕は野球部に所属しているが、その対戦チームの人数が少なく、残念に思うことなどである。

以上のことから、町ではどのように「スポーツをする機会の提供」をされているのかをたずねる。

湖東三山SICの経済効果について



たなか りょうが 議員
田中 凌河 (秦荘中学校)

議会で自分の思っている疑問を質問することは、普通なかなかできない体験なのでいい経験になりました。緊張した雰囲気の中、堂々と楽しんで町への質問ができました。

答 (商工観光課長)

湖東三山SICの経済効果は、愛荘町を訪れる観光客数でみると、開通前は年間約26万人であったところが、平成26年は約33万5千人、平成27年は約39万人と、大幅に増加している。観光客の増加は、施設入場料やおみやげ物販売、飲食物の購入等の増加につながっている。推測され、経済効果はあったものと考えられる。

その他、湖東地域の歴史や文化の優れた観光資源の知名度向上にSICの名称が役立っているものと考えられる。引き続き、観光客増による経済効果、交通の利便性向上による企業誘致、雇用創出など、地域の活性化につながる効果が見込まれると考えている。

最近、タブレットや電子黒板などを活用した授業について、新聞やテレビで取り上げられている。「自分で書く」ということも大事ではあるが、図や写真を見て学ぶときは、タブレットなどを使えば、見たい時に見たいものを見ることができ、スムーズな授業、わかりやすい内容になると思う。

最先端の技術を使った授業の導入について



こばやし ゆうと 議員
小林 優斗 (秦荘中学校)

普段の生活の中での要望や疑問を堂々と述べることができ、それに対してしっかりと答弁して頂けたのでうれしかったです。愛荘町の行政について知ることができ、良い経験になりました。

答 (教育主監)

県内のタブレットを使った授業を見学し、電子機器のよいところとして、イメージが膨らんだり、自主的に学習できる効果を感じた。残念な部分は、機器のトラブルで授業が止まってしまうとの説明を受けた。

これから先は、IT機器を使いこなさなくてはならない時代になる。現在、各学校のパソコンは更新時期を迎えていることから、コンピュータ室のパソコンの更新、各教室の環境整備を検討している。

電子機器は非常に効果的であるが、議員が言われたように「読む・書く・触れる・ノートにまとめる・話し合う・教えあう」活動も大切にしていきたい。

いじめ対策について



なかじま えいしろう 議員
中嶋 映清 (秦荘中学校)

普段入ることがない議場で、役場の人がいる前だったので緊張しました。自分たちの身近なことについて話を聞くことができ、とても貴重な体験になりました。

答 (建設下水道課長)

愛荘町では、学校を通じて、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に力を入れている。また、生活ノートやアンケートなどで、学級担任を中心に面談をし、悩みの相談を行っている。

いじめの相談があれば、先生一人ではなく、周りの先生とも協力して解決に向かうようにしている。

生徒の皆さんには、①人を大事にすること。②いじめを許さない学校づくりの充実。③もし、いじめで困ったときは、すぐに大人に相談すること。をお願いしたい。いじめで苦しむことのない学校を、みんなで作っていきましょう。

僕は、みんなが楽しく学校生活を過ごせ、いじめが起こる前に相談ができること、深刻なことにならない対策できると思う。そこで、愛荘町ではどのような対策がとられているか、これからのように充実をさせていくのか、また、僕たち生徒に期待されていることは何かを教えてください。

地球温暖化に対する取り組みについて



なかじま えいしろう 議員
中嶋 映清 (秦荘中学校)

前日のリハーサルでは、間違ってしまうことがありましたが、本番では間違うことなく発言できました。貴重な体験ができ、自分にとってすばらしい経験となりました。

答 (環境対策課長)

町では再生可能エネルギーの周知のため、一般家庭を対象に太陽光発電システムの補助を行ってきた。また、ごみの減量化や、環境学習・環境フェスタなどの啓発も行っている。

町では毎年、愛荘町雪害対策(除雪)計画書を策定している。冬期中、積雪により交通に支障をきたすと判断したときは、除雪業者や自治会にお願いし除雪に取り組んでいる。

自然災害に対しては、防災行動計画を作成し、気象状況に応じて職員を配置するなどの対応をしている。一人ひとりが日ごろから防災・減災対策に努めていただきたい。